

ウイルスベクター研究基盤を 強化して見えてくるもの

群馬大学理事(研究・企画担当) 未来先端研究機構長

花屋 実



本日はお忙しい中、群馬大学未来先端研究機構ウイルスベクター開発研究センター開設5周年記念シンポジウムにお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

これから講演に入ります。

このシンポジウムの趣旨は学長の挨拶にあったとおりでありますが、研究担当理事としては、ウイルスベクター開発研究センターを中心としたウイルスベクターの研究がわが国の生命科学の研究に多大な貢献をしていること、さらに、弊学の研究のポテンシャルを、このシンポジウムを機に広く知っていただきたいという思いもございます。

大学の機能分化や、国の科学技術政策の「選択と集中」が進む中で、地方の国立大学が、学内の尖った研究分野を重点的に支援することで研究開発力を高め、わが国のイノベーション創出に貢献したい、というのは大学共通の願いです。

ウイルスベクター研究開発基盤強化を進める中で、日本の医療イノベーションに結び付ける道筋も見えてきました。これは地方国立大学の「研究経営」成功の一つのモデルだと思っています。

◎ 第6期基本計画のなかの地方国立大学

招待講演として、総合科学技術・イノベーション会議常勤議員の上山隆大先生に、第6期科学技術基本計画における科学技術・イノベーション政策と地方国立大学への期待という演題でお話していただきます。

私事でございますが、上山先生が5年ほど前になさっていた、国立大学トップマネジメントセミナーの第2期に参加させていただき、先生の薫陶を受けました。このセミナーは若手の経営者(理事クラス)やその予備軍を対象としたもので、現在は、内閣府の大学支援フォーラムPEAKSの研修(イェール大学プログラム)に引き継がれています。

地方国立大学のこれからの研究力に期待する、という趣旨のお話をしていただけませんか、無理なお願いをしましたところ、快く引き受けてくださいました。上山先生、ぜひよろしく願いいたします。

上山先生のご講演に続きましては、弊学の未来先端研究機構ウイルスベクター開発研究センターから2人の研究者が研究成果の発表を行います。

まず、ウイルスベクター開発研究センター長の平井宏和教授です。新規のウイルスベクターの研究開発実績日本一の文字通り第一人者で、わが国の遺伝子治療研究に多大な貢献をしています。欧米の研究陣と戦うにはどうすればいいかについても話していただきます。

もう一人は、遺伝子のスイッチであるエピゲノムの世界的な研究者である畑田出穂教授です。遺伝子治療におけるウイルスベクターの弱点をエピゲノムで補う方法などにも触れていただく予定です。

それでは、先生方、どうぞよろしく願いいたします。